

第2回和歌山県立夜間中学設置準備委員会（協議概要）

1 日 時 令和6年7月4日（木） 13:30～15:00

2 会 場 東牟婁振興局地階第三会議室

3 協議内容

- (1) 第1回和歌山県立夜間中学設置準備委員会の振り返り
- (2) ニーズ調査 (3) 教育理念 (4) 学校体制 (5) 教育課程
- (6) 設置場所（校舎）

4 議事概要

(1) ニーズ調査

- ・アンケート用紙は、ただ置くだけでは回答は集まらない。社会福祉協議会など、活動している団体に直接お知らせに行ったり、隣保館の職員に説明したりして、協力してもらわないといけない
- ・アンケート用紙の配布や回答の呼びかけには、委員が協力することもできる
- ・外国人にとっては、やさしい日本語の表現を意識した方がよい
- ・少しでも多くの人に周知したい。民間施設など、人が集まるところにアンケート用紙を置くとよい

(2) 教育理念

- ・和歌山は自然豊かで世界遺産熊野古道もある。自然豊かというワードはよい
- ・すべての人を取り残さないというようなワードはよい
- ・夜間中学に通う人の気持ちを入れてほしい。「わかって楽しい」や「みんなといて楽しい」という気持ちを、短く表現するとよい

(3) 学校体制

- ・特別支援教育支援員、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーも入っている学校がある。専門性が違うので、学校に配置した方がよい
- ・他県の設置計画にもあるように、必要に応じて日本語指導担当教員等、専門性を有する教員を配置するのがよい

(4) 教育課程

- ・40分授業の1日4コマ、週5日の35週で年間700時間としている学校が多いが、交通事情等考慮して、0時間目を設けている学校もある
- ・交通の便が悪い地域であるため、電車の時間を確実に意識して下校時刻を定め、そこから登校時刻を考えないといけない

(5) 設置場所（校舎）

- ・開校にあたり、新たな建物をつくるのは難しいだろう。県の建物で考えるとちょうど新宮・新翔の統合があるので、教室が空いてくるのではないか
- ・車で通学できる人はいいが、公共交通機関での通学が難しい人もいる。車の免許を返納している高齢者への配慮が必要である
- ・多様性の時代であるので、多目的トイレ等、配慮が必要である
- ・宗教にも配慮が必要である